東医大誌　**72**(4)：316-319, 2014

東京医科大学八王子医療センターにおける日本褥瘡学会ならびに褥瘡予防・管理ガイドラインに対する認識度調査

倉　繁　祐　太[1)]　　長　谷　哲　男[1)]　　菅　又　　章[2)]

[1)]東京医科大学八王子医療センター皮膚科
[2)]東京医科大学八王子医療センター形成外科

【要旨】 東京医科大学八王子医療センターにおいて、褥瘡教育講演会に自ら参加した医療職員を対象として、日本褥瘡学会ならびに同学会が作成した褥瘡予防・管理ガイドライン、褥瘡ガイドブックに対する認識度についてアンケート調査を行った。回答者は 42 名であった。日本褥瘡学会については回答者の 70% 以上がその存在を認識していたが、学会に加入している者や、学術集会への参加経験がある者はいずれも 20% 未満であった。褥瘡予防・管理ガイドラインについては回答者の 60% 以上が認識していたが、実際に閲覧経験がある者は 40% 未満であった。褥瘡ガイドブックについても 60% 以上が認識していたが、閲覧経験がある者は 20% 未満であった。これらの結果から、日本褥瘡学会や褥瘡予防・管理ガイドライン、褥瘡ガイドブックの 3 者とも回答者の過半数に認識されていたと考えられる。

はじめに

日本褥瘡学会（褥瘡学会と略す）は、褥瘡と創傷マネジメントに関する研究の充実・発展ならびにその成果の普及を目的として 1998 年に設立された。総会として年次開催される学術集会のほか、全国 7 地域において地方会が開催されている。褥瘡学会による診療ガイドラインとして、2005 年に初版である「科学的根拠に基づく褥瘡局所治療ガイドライン」[1)] が発表され、以後 2 回の改定[2)3)] を経て、2012 年 6 月に「褥瘡予防・管理ガイドライン第 3 版（ガイドラインと略す）」[3)] が発表された。同ガイドラインの目的は “褥瘡管理に関わる全ての医療者が、それぞれの医療状況において、褥瘡の予防・管理をめぐる臨床決断を行うあらゆる局面で活用するために、現時点で利用可能な最良のエビデンスに基づいて推進項目を提示すること” と述べられている。またガイドラインとは別に、褥瘡の予防・管理について図表を含めて分かりやすく解説した「褥瘡ガイドブック（ガイドブックと略す）」[4)] が日本褥瘡学会の監修のもと 2012 年 8 月に発刊された。今回我々は東京医科大学八王子医療センター（当院と略す）の臨床現場における褥瘡学会やガイドライン、ガイドブックの認識度を把握する目的で、褥瘡教育講演会に自ら参加した医療職員を対象としてアンケート調査を行ったので報告する。

研究材料と方法

1.　当院の概要

当院は 616 床を有する東京都南多摩保健医療圏の中核病院の 1 つである。2012 年度に院内で発生した褥瘡のうち、深達度 d2 以上（日本褥瘡学会による DESIGN-R 分類[2)]）の褥瘡は 148 件であった。

2.　当院における褥瘡ケアに関する啓発活動

当院の褥瘡対策委員会の活動として、医療職員に向けた褥瘡教育講演会を定期的に開催している。2013 年 9 月 19 日の褥瘡教育講演会では、筆頭著者がガイドラインの内容について解説した。

平成 26 年 6 月 18 日受付、平成 26 年 8 月 1 日受理
キーワード：アンケート調査、褥瘡ガイドブック、褥瘡予防・管理ガイドライン、日本褥瘡学会、認識度調査
（別冊請求先：〒 259-1193　神奈川県伊勢原市下糟屋 143　倉繁　祐太）
TEL：0463-93-1121（内線 5035）　FAX：042-665-1796　E-mail：kurasige@is.icc.u-tokai.ac.jp

3.　調査の対象と方法

上記の講演会に自ら参加した当院の医療職員 47 名を対象として、5 項目の質問からなる選択式のアンケート調査（Table 1）を行った。褥瘡教育講演会の開始前にアンケート用紙を会場で配布し、終了後に回収した。

4.　倫理的配慮

アンケートは無記名とし、回答者が特定できないよう配慮した。

結　　果

1.　回答率

褥瘡養育講演会の参加者 47 名のうち 42 名が回答した。回答率は 89.4% であった。

2.　質問内容と結果（Fig. 1）

質問 1.　回答者の職種

看護師が 42 名中 29 名（69.1%）と最多であった。医師、薬剤師、管理栄養士が各 4 名ずつ（各 9.5%）、リハビリ専門職が 1 名（2.4%）であった。

質問 2.「日本褥瘡学会について知っていましたか？」

「既に入会している」と回答した者が 5 名（11.9%）、「知っていたが入会はしていない」と回答した者が 27 名（64.3%）で、両者の計 32 名（76.2%）は褥瘡学会について認識していたと判断できる。一方、「知らなかった」と回答した者は 10 名（23.8%）であった。

質問 3.「過去に日本褥瘡学会に参加したことがありますか？（複数回答）」

「学術集会に参加した」が 5 名（11.9%）、「地方会に参加した」が 1 名（2.4%）、「参加したことはない」が 36 名（85.7%）であった。

質問 4.「褥瘡予防・管理ガイドラインについて知っていましたか？」

「閲覧したことがある」が 15 名（35.7%）、「知っていたが閲覧したことはない」が 14 名（33.3%）で、両者の計 26 名（69.1%）はガイドラインについて認識していたと判断できる。「知らなかった」は 13 名（31.0%）であった。

質問 5.「褥瘡ガイドブックについて知っていましたか？」

「閲覧したことがある」が 6 名（14.3%）、「知っていたが閲覧したことはない」が 21 名（50.0%）で、両者の計 27 名（64.3%）はガイドブックについて認識していたと判断できる。一方、「知らなかった」は 15 名（35.7%）であった。

考　　察

1.　調査結果に関する考察

本調査の結果、褥瘡学会、ガイドライン、ガイドブックの 3 者とも回答者の過半数に認識されていたと結論できる。一方で学術集会への参加経験者やガ

Table 1　Questionnaire

褥瘡予防・管理ガイドラインに関するアンケート

本日は褥瘡講演会にご参加頂き有難うございました。褥瘡対策を向上させるために、アンケートにご協力ください。　※アルファベットに◯をつけてご回答ください。

1.　職種：　A　医師、歯科医師　B　看護師　C　薬剤師　D　管理栄養士、栄養士　E　リハビリ専門職　F　臨床工学士　G　病院事務職　H　その他

2.　日本褥瘡学会について知っていましたか？
A　既に入会している　B　知っていたが入会はしていない　C　知らなかった

3.　過去に日本褥瘡学会の学術集会に参加したことがありますか？（複数回答可）
A　総会に参加した　B　地方会に参加した　C　参加したことはない

4.　褥瘡予防・管理ガイドラインについて知っていましたか？
A　閲覧したことがある　B　知っていたが閲覧したことはない　C　知らなかった

5.　褥瘡ガイドブックについて知っていましたか？
A　閲覧したことがある　B　知っていたが閲覧したことはない　C　知らなかった

アンケートにご回答頂き誠に有難うございました。
文責：褥瘡対策チーム（皮膚科）倉繁祐太

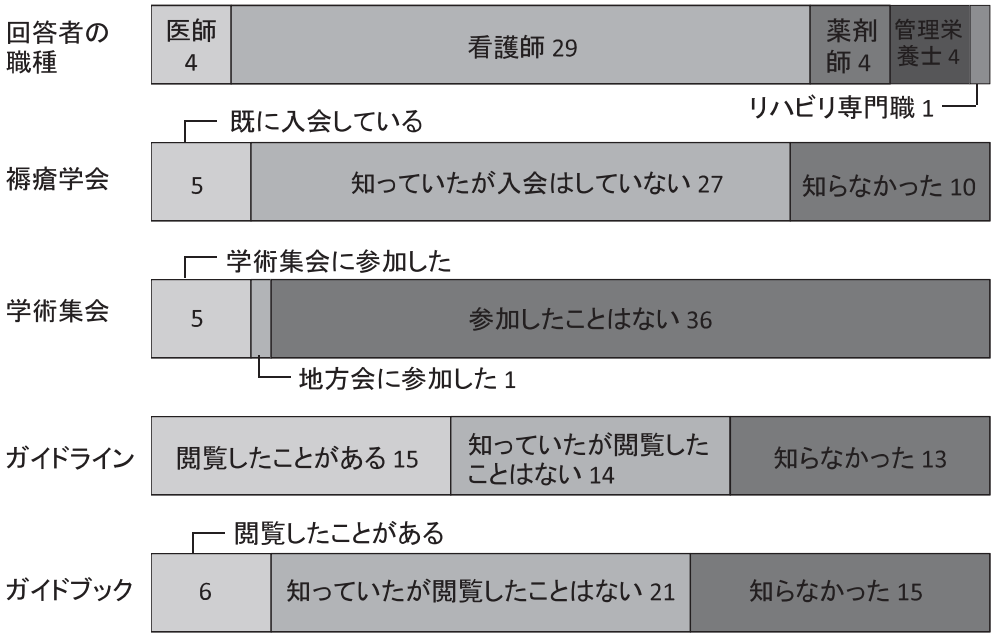

Fig. 1　Answers from 42 respondents.

イドラインおよびガイドブックの閲覧経験者は、いずれも回答者の半数以下であった。これらのことから、当院の医療職員の褥瘡ケアを向上させるためには、褥瘡学会に実際に参加することの有用性、およびガイドラインまたはガイドブックの具体的な活用方法の2点について周知することが重要であると考えられる。

2.　本調査の限界と留意事項

本調査では褥瘡ケアへの関心が高い集団（褥瘡教育講演会に自ら参加した医療職員）を調査対象としたため、バイアスの影響で見かけ上の認識度が実際よりも高くなった可能性があることに留意する必要がある。なお我々が調べ得た限り、本邦において褥瘡学会やガイドラインに対する認識度調査は過去に報告されていない。しかしながら、本調査は比較的少人数を対象とした単一施設内調査であるため、本邦の医療機関の一般的傾向を反映するものではなく、また他施設との比較を意図したものではない。本調査の焦点はあくまでも当院の医療職員であり、現時点での褥瘡学会およびガイドライン・ガイドブックの認識度を評価し、今後の院内に向けた啓発活動の方向性の検討を目的としたものであることを強調したい。

結　　論

褥瘡教育講演会に自ら参加した医療職員を対象として、日本褥瘡学会、褥瘡予防･管理ガイドライン、褥瘡ガイドブックに対する認識についてアンケート調査を行った。3者とも回答者の過半数に認識されていたが、実際に学会参加やガイドライン、ガイドブックの閲覧経験がある者は半数以下であった。褥瘡医療の発展のためには､褥瘡学会やガイドライン、ガイドブックがより多くの医療者に認識されることが重要である。

謝　　辞

本調査を実施するにあたり、多大なご協力を頂きました当院褥瘡対策チームの土田学氏（看護部）、村山由美子氏（看護部）、廣瀬香織氏（薬剤部）、関徹也氏(栄養管理科)に深謝致します。またアンケートにご回答頂いた当院の医療職員の皆様に心より感謝致します。

文　　献

1）日本褥瘡学会：科学的根拠に基づく褥瘡局所治療ガイドライン。照林社（東京）2005
2）日本褥瘡学会：褥瘡予防・管理ガイドライン。照林社（東京）2009
3）日本褥瘡学会学術教育委員会 ガイドライン改訂委員会：褥瘡予防･管理ガイドライン(第3版)。褥瘡会誌 **14**：165-226, 2012
4）日本褥瘡学会：褥瘡ガイドブック。照林社（東京）2012

Awareness of Japanese Society of Pressure Ulcers and its Guidelines for Prevention and Management of Pressure Ulcers : a questionnaire-based survey conducted at Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University

Yuta KURASHIGE[1)], Tetsuo NAGATANI[1)], Akira SUGAMATA[2)]

[1)]Department of Dermatology, Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University
[2)]Department of Plastic Surgery, Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University

Abstract

In this paper, we report the results of a questionnaire on awareness of the Japanese Society of Pressure Ulcers（JSPU）and its publications, the JSPU Guidelines for the Prevention and Management of Pressure Ulcers and Guidebook on Pressure Ulcers. This survey targeted medical staff at the Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University. We received a total of 42 responses. The results showed that while over 70% of the respondents were aware of the JSPU, less than 20% were either members of the JSPU or had attended a JSPU congress. Although more than 60% of the respondents knew of their existence, fewer than 40% and 20% of them had read the guidelines and the guidebook, respectively.

〈**Key words**〉: Awareness, Guidebook on Pressure Ulcers, Guidelines for Prevention and Management of Pressure Ulcers, Japanese Society of Pressure Ulcers, Questionnaire-based survey